





靡藍錄

緒言

今ヤ我邦ノ商工業ハ駸々乎トシテ其歩ヲ進メ
 前途頗ル多望ナリト雖モ之ヲ北歐諸國ノ盛況
 ニ以スルトキハ未タ遠ク彼レニ及ブ一能ハス
 シテ尚ホ幼稚ノ境域ヲ脱スルヲ得サルモノト
 ス試ニ本邦ノ外國貿易ニ就テ之ヲ見ヨ其輸出
 入全額ハ一昨年ニ至リ二億萬圓餘ニ達シタル
 ヲ以テ世人皆之ヲ以テ異常ノ進歩ナリトナシ
 タルモ翻テ英獨佛ノ統計ヲ見ルニ佛國ノ昨年

大正十一年四月
 大隈侯爵郵寄贈

ニ於ケル輸出入總計ハ七十二億萬^{フランク}獨逸ハ八十二億萬^{マルク}英國ハ六億八千萬^{ポンド}佛ハ本邦ノ十倍獨逸ハ十六七倍英ハ廿五六倍ニ當リ(精確ノ筭當ニテラス)僅ニ北獨逸ノ一港タル漢堡スラ尚ホ昨年中ノ輸出十三億萬^{マルク}輸入十六億萬^{マルク}合計廿九億萬^{マルク}多キニ達シ又商工業上ノ二等國タル奧太利ト雖モ尚ホ且十五億萬^{マルク}デンノ輸出入額アリ而モ彼ノ最爾タル連馬ノ如キ一小國ニ於テモ六年々五六億^{クローニン}ノ輸出入額ヲ有スルヲ見ル此

等諸國ノ輸出入額ヲ把リ来リテ以テ本邦ノ輸出入額ト對比セハ所謂異常ノ進歩ナルモノ果シテ如何思テ此ニ至レハ豈寒心セサルヲ得ンヤ然レトモ其發達ノ度ヨリ之ヲ考フルキハ本邦ノ輸出入額ハ廿九年ヲ最後トスル十年間ニ於テ九千六百萬圓ヨリ二億七千萬圓ニ増進シ即チ略三倍ノ進歩ヲ為セルモノトス是ノ如キノ進歩ハ己ニ發達ノ上層ニ達セル諸國ニ於テ之レヲ求メント欲スルモ極メテ困難ナリト雖モ其以前ニ溯リテ之レヲ尋究セハ其例ナキニ

非ラス即チ英國ニ於ケル千八百五十五年乃至
六十五年ノ十年間ニ於ケル輸出入ノ合計ヲ見
ルニ二億五千萬磅ヨリ五億一千万磅ニ進ミ即
チ略二倍餘ノ増進ヲ為セルアリ其他ノ諸國ニ
於テモ亦同一ノ進歩ヲ為セシ事例ヲ見出ス
敢テ難キニ非サルモ今一々列擧セス

工業モ亦著シキ進歩ヲ為セルモノナキニアラ
サルモ歐米各國ト比肩ノ地位ニ達セン
途尚ホ遠遠ニシテ重要ノ工業スラ尚未ク我邦
ニ起ラサルモノ少カラサルナリ蓋シ英國ニ於

テハ製鐵造船器械製造及綿毛紡織ノ諸業ヲ以
テ重要ナル工業トナセルモ本邦ニ於テハ僅ニ
綿糸紡績業ノ起ルアルノミニテ其他ハ漸ク端
緒ヲ開カントスルニ過キス而シテ綿糸紡績業ノ
如キモ我レハ今日僅ニ七十萬錘ヲ有スルノミ
ニテ尚且注々其敗路ニ窮シ居レルニ彼レハ已
ニ五十年前ニ在テ二千萬錘ヲ有シタリ(千八百
五十年ノ統計)又本邦ノ化學工業ノ如キハ尚ホ
極メテ微カタルモノニシテ獨逸其他ノ諸國ヨ
リ染料及各種ノ化學製品ヲ仰ク一年々一千万

圓ヲ超過シ居レルノミナラス我カ重要製造品
ト稱スルモノニ至リテモ其産額ハ僅少ニシテ
一種ノ工業ヨリ數千萬圓ノ産額ヲ得ルモノ、
如キハ真ニ寡々トシテ辰辰ノ如クナルハ洵ニ
一大恨事ニ属セリ之ニ反シ英國ノ如キハ其産
額ノ巨大ナルモノ甚タ多ク製毛額ノ年一億萬
磅ト概算セシハ己ニ二十年前ノコトニテアリ
キ顧フニ十九世紀ハ機械時代ナルカ故ニ機械
ノ應用ニ依リテ其進運ヲ致シタルモノ多キニ
居レルニモ構ラス本邦ノ工業ハ現ニ小規模ノ

家内工業多クシテ手工ニ由テ執業スルモノ殆
ント其ノ要部ヲ為スノ實況アルハ未タ世運ニ
随伴シテ齊駕駢進スルモノト云フヲ得ス且夫
レ本邦ノ製造品ハ之レヲ彼レニ比スレハ多ク
ハ粗ニシテ廉ナルモノノミニシテ未タ質ノ精
ヲ以テ勝ヲ制スルニ至ラス是レ後進者トシテ
固ヨリ免レサル所ナリト雖モ亦以テ斯業ノ幼
稚ナルヲ證スルニ足レリ例之ハ本邦ノ製造品
中寧ロ精品ニ属スル絹織物ノ如キモ歐洲ニ於
テ之レヲ需要スル所以ヲ質セハ其質ノ精ナル

ニ非ラスシテ其價ノ廉ナルニ在リ本邦羽二重
ノ價格ハ之ニ要スル材料ノ絹糸カ倫敦相場ヨ
リモ往々ニシテ廉ナルニヨリ僅カニ其販路ヲ
持續スルイテ得ルノミ之ヲ要スルニ本邦ニ於
ケル工業ノ現況ハ彼レニ以シ其進歩ノ程度ニ
於テ五十年乃至百年ヲ輸スルモト謂ハサ
ルヲ得ス何ントナレハ機械工業ノ起リタルハ
英國ニ在リハ既ニ前世紀ノ終リニアリ而シテ獨
逸ニ於テ政府カ製織事業ヲ保護シタルハフレ
テリツキ大王ノ時代ナレハナリ

商工業ノ發達ヲ媒助スル海陸交通機關ノ設備
ニ至リテモ亦商工業ノ進歩ト均一ノ狀況ヲ表
示シテ大差アルトナシ航海事業ハ戰勝ノ餘響
ニヨリ今將ニ其發達ノ端緒ヲ開カントスルノ
氣運ニ遭遇シタルノミナルカ故ニ之ヲ取テ以
テ彼ニ對照スルハ少シク酷ナルカ如シト雖モ
今外國ヨリ本邦各口ニ入リタル船舶ノ噸數ヲ
取テ之ヲ漢堡一港ノ入船噸數ニ以スルニ本邦
ハ三百六十五萬噸漢堡ハ六百廿三萬噸ニシテ
即チ本邦ハ僅ニ彼レノ半ヲ超ユルニ過キサレ

ノミ豈ニ痛歎ノ至ナラスマヤ又鑛道事業ノ如キ
モ本邦ハ今日漸ク其中心ヲ貫通スル大幹線ノ
竣工ヲ見ルトスルニ當リ歐米各國ニ在テハ恰
モ蛛網ヲ敷張スルカ如ク到ル所其架設ヲ見サ
ルテナク今々漸ク進テ僻隈ニ在ル小區域ノ小
都會及村落ヲモ漏ラヌコトナク遍ク聯絡セシ
メントスル地方的小鑛道ノ問題ヲ研究シツ、
アルノ時代トス而シテ彼ノ普漏^{プロハス}西一國ノ官有
鑛道ノ如キハ其ノ收入總額四億萬^{マルク}ノ巨額
ニ達スト云フ豈亦感ナラスヤ

是ノ如ク論シ来レハ本邦ノ商工業ハ甚ク憐ム
ヘキノ地位ニ立チ前途大ニ憂フヘキモアリ
テ殆ント吾人ヲシテ落膽寒心セシムヘキノ状
況ナキニアラサルモ我天然ノ景象ハ工業上決
シテ一步モ彼レニ遜ル所ナキハ吾人ノ深ク信
シテ疑ハサル所ニシテ此ノ天然ノ恩澤ヲ利用
シテ富源ヲ開發スル所ノ能力智識モ亦吾人ハ
敢テ彼レニ劣ラサルノミナラヌ英國ト云ヒ獨
逸ト云ヒ其盛況ハ實ニ上述ノ如クナルモ其進
歩ハ決シテ遠ク數千年ノ昔時ニ溯源シタルニ

非ラスシテ迄ク今世紀即チ百年以後ニ於テ勃
然トシテ今日ノ旺盛ヲ極ムルニ至リタルニミ
現ニ獨逸ノ如キハ普佛戰爭以前ニ於テハ殆ン
ト我今日ノ状態ト些ノ徑庭アルコトナカリキ
商業ノ如キモ亦然リ之ヲ歴史ニ徵スルニ世界
ニ於ケル商權ノ推移ハ實ニ變遷極マリナクシ
テ其一盛一衰ハ恰モ秋天ノ陰晴定リナキカ如
キモノアリフエニシヤノ注古ハ暫ク措テ問ハ
ス迄世ニ至リテハ世取ノ商權葡萄牙荷蘭ヲ經
テ英吉利ニ遷リ而シテ今ヤ英國ノ商權モ亦稍

傾キテ將サニ他移セントスルノ觀アリ斯ク移
動ヲ来ス所以ハ固ヨリ人為ノ力與テ多キニ居
レリト雖モ抑モ亦自然ノ勢之ヲシテ然ラシム
ルモノアリ彼ノ葡萄牙ノ盛時ハバスコデガマ
ガ東印度ニ回航スヘキ航路ヲ發見シタルニ始
マリ英國ノ商權ハ東印度濠洲其他四方ニ殖民
地ヲ開キタルニ依リテ起レルヲ以テ其一斑ヲ
窺フニ足ル蓋シ當時ニ在テハ東印度地方ノ貿
易ハ能ク商權ノ推移ヲ左右シタリト雖モ今日
ハ天下ノ形勢大ニ革マリ商業上ノ競争ヲナヌ

ヘキノ區域モ亦大ニ擴張シ南北兩米、濠洲、東亞諸國及亞弗利加ノ如キモ亦歐洲諸國ノ商權ヲ競爭スルノ要地トナレリ。プロフェソル、レツン、ユハ商權ノ推移ヲ論シテ英國ノ商權稍衰頽セルヲ説キ而シテ將來之ニ代ルヘキモノハ米國ハ暫ク措テ問ハス歐洲ニ在テハ必ス獨逸ナラント云ヘリ。蓋シ彼レノ眼中東洋人種ナキヲ以テ獨リ白哲人種中ニ於テ獨逸ヲ撰定シタルナリ。是レ今ヨリ二十年前ノコトナルモ彼レ若シ本邦ノ商工業カ偉大ノ進歩ヲ為シ且ツ日清戰

争ニ依リテ本邦人カ非常ノ勇氣ト才能ト有スルノ人民タルイヲ知ラハ敢テ遠カニ斯クノ如キノ斷定ヲ下サバリシヤ疑フ容レス何トナレハ單ニ地理上ヨリ考フルモ將來太平洋ノ商權ヲ掌握スルニ於テ本邦ノ如ク便宜ノ地位ニ立ツモノ他ニ之レアラサレハナリ。農業ハ本邦ノ産業中比較的ニ進歩セルモノナリ。ルモ尚ホ彼レニ以シテ遜ル所アルモノ頗ル多シ。米作ノ我四千萬同胞ノ常食トシテ將タ我人民多數ノ産業トシテ最モ重要ナルハ勿論。蚕茶

ノ如キモ支那印度等隣近ノ地ニ於テ競争ヲ試
ミントスル強敵ヲ有スルヲ以テ徒ニ舊慣ヲ墨
守スルイナリ攷々奮勵シテ之レカ改良ヲ圖リ
各般ノ需要及需要者ノ嗜好ニ應スルノ途ヲ考
究スルヲ必要ナリトス又畜産ハ他ノ農業ニ比
シ最モ幼稚ニシテ其改良發達ヲ要スルモノ少
カラス就中馬匹ノ如キハ軍事ニ農業ニ或ハ運
輸交通ニ其用途極メテ多端ニシテ各般ノ事業
發達スルト共ニ益々其需要ヲ増加スルハ自然
ノ勢ニシテ特ニ一朝軍國ノ事アルニ當リテハ

筋骨逞シキ駿足ニ待ツモノ甚タ多シトスフリ
ドリツヒ大王云ヘルアリ馬匹ハ國家ノ重寶ニ
シテ富國強兵ノ基ナリト洵ニ然リ今本邦及歐
洲大陸諸國ニ於ケル人口ト馬數トノ比例ヲ見
ルニ人口千ニ付本邦ハ僅ニ三八ナルニ佛ハ七
五、獨ハ七七、澳ハ八〇ニシテ歐羅巴俄羅斯ノ如
キハ二〇七ノ多キヲ有セリ若カモ本邦ノ馬匹
ハ駕駘其多數ヲ占メ驥驥ノ如キニ至テハ極メ
テ僅少ナリトス蓋シ戰艦製造軍備擴張ニ汲々
タルノ今日ニ於テハ馬匹改良ノ事亦一日モ之

ヲ忽諸ニ付スヘカラサルナリ又ハ牛ハ乳用肉
食ノ需要逐年増加スルニモ拘ラス其總數ハ全
國ヲ舉ケテ僅ニ百十三萬餘頭ニ過キス即チ人
口四十ニ付牛一頭ノ割合ニ當レリ之ヲ以テ體
力強壯元氣充滿セル國民ヲ養成セシメ其難
シト謂フヘシ其他鷄豚ノ如キモ亦改良繁殖ノ
途ヲ講スルハ國家經濟上極メテ必要ノ一ナリ
ト信ス

農商務省ノ積弊

本邦ノ産業ハ己ニ緒言ニ於テ概陳シタルカ如

ク今日ニ在テハ未タ充分ノ發達ヲ見ル能ハサ
ルモ其狀況ハ恰モ草木ノ春陽ニ向テ漸ク萌芽
セントスルカ如ク前途甚タ多望ナリトス且ツ
天然ノ地勢ハ將來太平洋上ニ於ケル通商貿易
ノ霸權ヲ掌握スヘキノ天職ヲ賦与セラレ居レ
ルカ故ニ果シテ此ノ天職ヲ完フセンニハ國民
モ亦大ニ天然ノ便宜ヲ利用スルノ覺悟ナカレ
ヘカラス況ンヤ戰勝後ノ今日ニ於テハ歐米諸
大國ト對立駢馳シテ國威ヲ毀損セス平和ヲ永
遠ニ保持スルノ上ニ於テ銳意熱心ニ産業ノ發

達振興ヲ圖リ國富ヲ増進シ國力ヲ培養スルノ
必要益ニ多キヲ加フルニ至リタルヲ以テ政府
モ亦全カヲ此ニ傾注シテ大ニ其發達進歩ヲ助
長セシムヘキノ畫策ナカルヘカラス然ルニ農
商務省、從來施設セシ所ノ事蹟ヲ見ルニ或ハ
産業ヲ誘導獎勵スルノ上ニ於テ適當ノ方法ヲ
誤マリ(生糸直輸出獎勵法ヲ制定シタルカ如キ
是ナリ)或ハ當然監督スヘキノ任務ヲ怠リテ(取
引所ノ弊風ヲ矯正スル能ハサルカ如キ是ナリ)
却テ經濟界ノ紊亂ヲ來タシ産業ノ發達進歩ヲ

沮滯ナラシメタルカ如キノ事例少シトセス特
ニ創設以來不幸ニモ吏僚ノ交迭頻繁ニシテ處
務ノ方針一定セズ加フルニ社會ノ進歩ニ隨伴
シ産業ノ發達ニ應ジテ監督助長スヘキ各部ノ
機關完備セサルヲ以テ主管ノ事務鬱積淹滯シ
テ敏活ナル行動ヲナス不能ハス往々人民ヲシ
テ其煩勞(會社認可ノ如キ是ナリ)ニ耐ヘスシテ
怨言ヲ發セシノ遂ニ有害無益ノ官府ナリトノ
譏ヲ招クニ至リタルハ當局者ニ於テ固ヨリ其
責ヲ免レサル所ニシテ現ニ足尾銅山鑛毒事件

ノ如キハ去ル廿三年以來田中正造等カ或ハ新聞紙上ニ於テ或ハ帝國議會ニ於テ再三再四天下ニ呼籲シタルニモ拘ハラズ該省ノ優柔不斷ニシテ無為無能ナル漫然其監督ヲ怠リ遂ニ地方人民ヲシテ輦轂ノ下ニ聚訟スルノ己ルヲ得サルニ至ラシメタルカ如キハ實ニ其失體ノ最モ甚シキノ一例トシテ見ルニ足ル故ニ此際ニ處シテ此等ノ積弊ヲ一掃シ以テ本省ノ職責ヲ完フセンニハ根本的ニ大刷新ヲ断行シテ省中ノ組織ヲ一變シ以テ各部ノ行政機關ヲ整頓シ

施設ノ方針ヲ確定シテ以テ産業ノ發達進歩ヲ助長スヘキノ經營ヲナササル可カラズ余カ該省ノ政務ニ関シ平素懷抱スル所ノ意見實ニ此ノ如シ故ヲ以テ今春之ヲ農商務大臣ニ承クルヤ著々此ノ方針ニ依リテ省内ノ改革及事務ノ改善ヲ圖リ其在職ノ日極メテ短少ナルニモ拘ラズ産業ノ發達進歩ニ関シ規画經營スル所頗ル多シ其ノ在職中ニ於テ施設セル事務ノ梗概ヲ左ニ列舉セントス

官制ノ改正

本省ノ官制ハ縮少主義ヲ以テ屢次行政整理ヲ
ナシタルノ結果事務ノ繁閑ヲ問ハス一槩ノ標
準ヲ以テ局課ノ廢合定負ノ削減ヲ断行シタル
モノナルカ故ニ固ヨリ其宜シキヲ得サルハ當
然ニシテ而カモ近年農商工業ノ勃興ニ伴ヒテ
其事務益繁多ニ赴キ動モスレハ輒チ澁滞ヲ来
タスノ事實アルニ依リ行政機關ヲ整理シ事務
ノ敏活ヲ圖ルニ必要ナル程度ニ於テ官制ノ改
正ヲ為シタリ今其大要ヲ擧ゲンニ鑛山局長ハ
鑛業條例ヲ實施シタル以來鑛業大ニ發達シ事

務随テ増加シタルノミナラス各鑛山監督署ヲ
管理スルノ重責アリ而シテ特許局長ハ條約改正
ノ結果ニ依リ昨年十一月日獨條約公布以來發
明意匠商標等ニ関スル相互保護ノ條款ヲ批准
交換ノ日ヨリ實施スルコトナリ尋テ英米瑞
佛等ノ諸國モ亦此ノ條款ニ均霑スルニ至リタ
ルカ為メ特許局ハ俄然國際的官衙トナリタル
ノミナラス他日工業所有權保護同盟會ニ加入
スルノ約アル等其任務随テ重ヲ加フルニ至リ
兩局長ノ職責ハ共ニ他ノ勅任局長ニ以シ毫モ

軒輊アルナク否寧口重大ナルモノアルニモ拘
ラス其位地ハ依然奏任ニシテ彼是權衡ヲ得サ
ルヲ以テ之ヲ陞シテ勅任ト為シ且特許局ハ前
記ノ理由ニ依リ事務類ニ増加セシヲ以テ新ニ
專任事務官一名ヲ置キ局長ヲ輔ケテ其事務ヲ
服セシメ以テ條約ヲ實施スルノ上ニ於テ毫モ
沮礙ナカラシムヘキノ準備ヲ為シ又參事官及
書記官ノ定員ハ從來他省ニ比ヌレハ其事務ノ
繁雜ナルニモ拘ラス甚タ寡少ナルノ結果一時
ノ權宜ニ依リ技師ヲシテ行政事務ニ從事セシ

ムルニ至リ之レカ為メ注々事務舉カラサルノ
患アルヲ以テ更ニ參事官三名書記官二名ヲ増
置シ而シテ水産業ハ四面環海ノ本邦ニ於テハ
敢テ農業ニ讓ラサルノ重要産業ニシテ前途改
良ヲ要スルノ點少ナカラス工業モ亦近來頗ニ
勃興シ工場各地ニ起リ益ニ隆盛ヲ極メントス
ルノ氣運ニ際シ工場ノ整理勞働者ノ保護等工
業ノ監督獎勵上必要ナル施設ノ事項甚タ多キ
ニモ拘ラス水産ハ農務局ノ一課工業ハ商工局
ノ一課ニ於テ僅カニ其事務ヲ處辨スルニ止マ

り到底充分ノ事業ヲ舉クルヲ能ハサルニ依リ
商工局ヲ廢シテ商務工務ノ兩局ヲ置キ農務局
ノ事務ヲ割テ別ニ水産局ヲ設置セリ貿易品陳
列館及地質調査所ハ從來技師ヲ以テ其事務ヲ
處辨セシメタルニ依リ充分ノ効績ヲ舉クルヲ
能ハサルノミナラス貿易品陳列館ノ如キハ僅
ニ海外貿易ノ資料トナルニキモノ、ミテ蒐集
陳列シタルニ過キサルヲ以テ之レヲ廢シテ更
ニ商品陳列館ヲ商務局ニ地質課ヲ鑛山局ニ置
キテ其事務ヲ掌理セシメ從來山林局ニ於テ技

師ヲ以テ無任セシメタル森林監査官ハ僅カニ
官有林野ノ處分及其業務ノ監査ヲ為スニ止マ
リタルモ森林法實施以後ニ於テハ民有林ノ監
督ヲ為スヲ要スルニ依リ森林監査官ヲ廢シテ
專任森林監督官五名ヲ置キ一般森林業務ノ監
督ヲ為スニキハ準備ヲ為シ又大林區署ハ青森、
秋田、宮城、東京、長野、大阪、廣島、高知、福岡、及熊本ノ
十大林區署ニシテ其管轄區域廣大ニ過キ林務
ノ施行上不便尠カラサルヲ以テ更ニ岩手、石川、
岡山、愛媛及鹿兒島ノ六大林區署ヲ増置シ其職

員ノ定員ハ林務官四十人^{舊二十人}林務官補八十人^{舊七十人}營林主事五百五十八人^{舊三百八十八人}書記二百四十人^{舊九十人}營林主事補八百九十二人^{舊六百八十人}森林監守八百四十人^{舊七百二十人}ト為總員六百六十九人ヲ増加セリ

農商工高等會議規則ノ改正

農商工高等會議ハ其議權ノ範圍單ニ海外貿易ニ關スル事項ニ止マリ其以外ニ出テ、計議スルコト能ハサルニ依リ往々時務ニ副ハサルノ譏アルヲ以テ更ニ其議權ノ範圍ヲ擴張シテ汎

ク農商工業ニ關スル重要事項ヲ審議スルノ所ト為シ議員ノ定員二十名ヲ改メテ三十名ト為シ全國產業者ノ意思ヲ代表スルノ機關ニ供シ當局ノ計畫スル各般ノ重要ナル改良擴張ノ事業ヲ討議セシメ官民提携ノ實ヲ舉ケ以テ農商工高等會議ヲシテ名實相副ハシムルコト、為シ而シテ其議員モ己ニ選擇シテ上奏ノ手續ヲ了シタルモ未タ其發表ヲ見ルニ及ハスシテ退官スルニ至リタリ

臺灣及北海道ノ地質調査ノ管理

臺灣ノ地質調査ハ總督府ニ於テ其急務ナルヲ
感シ殖産部中ニ専門ノ技師ヲ置キテ以テ之レ
カ調査ニ著手シ北海道ノ地質モ亦元拓殖務省
ニ於テ來年度ヨリ其ノ調査ヲ為スノ計畫アリ
タルモ同一ノ事業ニシテ主管官廳ヲ異ニシ個
個分立シテ之レカ調査ニ著手セントスルカ如
キハ事業ノ統一ヲ欠キ随テ多費冗員ヲ要スル
ノミナラス到底其成效ヲ見ルヲ得サルヘキニ
依リ北海道及臺灣ニ於ケル地質ノ調査ニ関ス
ル事務ヲ舉ゲテ悉ク之ヲ農商務省ノ主管ニ移

スノ計畫ヲ為セリ
事務ノ改善
農商工ニ関スル行政事務ハ他ノ行政機關ニ以
シ人民ノ利害上最モ直接ノ關係ヲ有スルモノ
ニシテ其事務ヲ辦理スルノ方宜シキヲ得ルト
否トハ商工業其物ノ特性トシテ時機ノ得喪上
影響ヲ蒙ル一勘ナカラサルモ從來農商務省カ
人民ニ對スルノ所為ハ往々親切ヲ欠キ徒ラニ
煩勞ヲ重ヌルノ弊風アルヲ免レサルニ依リ余
ハ就任ノ當初ヨリ專ラ此點ニ注目シ一方ニ於

テ嚴確ナル監督ヲ為スト同時ニ又他方ニ於テ
ハ人民ニ對シ務メテ開放主義ヲ取り出來得ヘ
キ丈ノ利便ヲ與ヘ次官以下各局課長ニ委任ス
ヘキ權限ノ範圍ヲ擴張シテ以テ事務ヲ處辨ス
ルノ上ニ於テ簡捷敏活ナル行動ヲ為スヲ得セ
シメ且九月十四日ノ告示ヲ以テ人民ヨリ提出
スル建議請願及產業若クハ農商工業上ノ技術
ニ關スル事項ノ質問并ニ其紹介ノ申請吏員派
遣ノ要求獸醫蹄鋏工及此等諸學校ノ諸願書并
ニ認可株式會社商業會議所及取引所等ヨリ提

出スル諸報告書類ノ如キ從來必ス地方廳ヲ經
由シタルノ迂ヲ避ケ本省ト直接注復スルノ便
ヲ與ヘ以テ大ニ其煩勞ヲ省キタリキ又土地ノ
官民有區分鑛山ノ試掘採掘ニ關スル特許株式
會社取引所ノ發起及設立認可ノ申請特許意匠
商標等ノ諸願届其他苟モ人民ノ權利及利益ニ
關スル事件ニシテ從來動モスレハ輒チ其處分
ヲ遷延シテ人民ニ非常ノ不便ヲ感セシメタル
モノ、如キハ隨時各局課ニ就キ調査中ニ屬ス
ル未決事件ヲ査閱シ其主任者ヲ督勵シテ速ニ

之レカ處分ヲ了セシメ以テ此弊習ヲ芟除シタ
リ

實業教育ノ管理

農商工業ニ関スル教育ハ農商務行政上最モ緊
要ナル事務ノ一ニシテ其國家産業ノ發達ニ関
係スル所極メテ大ナルニ依リ實業教育ノ普及
整備ヲ計ルハ實ニ刻下ノ急務ト謂ハサルヘカ
ラス而シテ實業教育ノ要ハ農商工等諸業ニ関
スル技術上ノ智識ヲ普及シ並ニ實際ノ操業ニ
適合スル所ノ技術家ヲ養成スルニ在リテ存シ

其主旨固ヨリ深遠ノ學理ヲ講究シ高尚ノ學士
ヲ薰陶スルニアラスアルヲ以テ修業者ヲシテ實
務ニ應用スヘキ學理經驗ヲ習得セシメ社会ノ
需要ニ應シテ有為ノ實務者ヲ養成シ以テ各種
産業ノ發達ニ裨補セシムルヲ期セサルヘカ
ス然ルニ現今ノ實業學校ニ於ケル實際ノ成績
ヲ觀察スルニ往々實業獎勵ノ本旨未ク貫徹セ
サルノ憾アリ是レ蓋シ實業社界ニ疎遠ナル所
ノ文部省ヲ以テ其管理者ト為シタルニ由ラス
ンハアラス而シテ之ヲ我産業ノ現状ニ徴スル

ニ實業學校ハ單ニ學校タルノ任務ヲ盡ス、外
更ニ又實業者ノ協議質問ニ應シ製産物ノ試験
ヲ為ス等一般實業界ヲ指導誘掖スルノ機關タ
ルノ必要アリ隨テ其組織及趣向ニ於テモ亦一
般ノ教育ト大ニ其趣ヲ異ニスルモ、アルニ依
リ之ヲ文部省ノ主管ニ屬シテ一般教育ノ系統
ニ列セシムルヨリハ寧ロ農商工業者ト密接ノ
關係ヲ有スル所ノ農商務省ノ主管ニ屬シ一般
農商務行政ト相伴ニ其必要ニ應シ其狀態ニ照
シテ適宜之ヲ經營スルノ極メテ妥當ナルヲ認

メタルニ依リ農科大學、高等商業學校、東京大阪
兩工業學校其他實業教育費國庫補助法ニ依リ
補助金ヲ交付スニキ公立農業、商業學校徒弟學
校及實業補習學校并ニ本省監督ノ下ニ立ツ所
ノ農商工組合ニ於テ設立シタル實業學校、如
キモ舉ケテ之ヲ農商務省ノ主管ニ屬セシメ以
テ實業教育ノ普及ト農商務行政ノ周到トヲ期
セシトセリ

北海道ノ森林原野及水産、臺灣ノ森林水
産及鑛山ノ管理

北海道ニ於ケル森林原野及水産ニ関スル事項ハ從來農商務省ノ主管ニ屬セシカ最ニ拓殖務省ノ設置セラレ、ヤ此等政務ノ如キハ拓殖行政ノ要部ナルヲ以テ他ノ拓殖政務ト共ニ一大臣ニ於テ之ヲ主管スルノ必要アリト為シ遂ニ舉ケテ之ヲ拓殖務大臣ノ所管ニ移シタルモ談道ノ農事、蚕茶、畜産、家畜衛生、狩獵、鑛山、商工業等ノ事項ハ依然農商務省ノ主管ニ屬スルカ故此等ノ政務關聯シテ共同ノ施設ヲ為スノ上ニ於テ其主管官廳ノ異ナルカ為メニ行動注々敏

活ラズクノ嫌アリ況ンヤ拓殖務省己ニ廢セラレタルノ今日内務省北海道局ニ於テ之ヲ管掌スルカ如キハ當ニ政務ノ施行上ニ於テ統一ヲ欠クノミナラズ實際其事業ヲ監督經營スルニ當リテハ必ス之レカ主任官吏ヲ常置シテ其事務ヲ處辨セシムルカ若クハ主務省ニ向テ交渉スルノ煩ヲ執ラサルヲ得ス臺灣ニ於ケル山林、水産及鑛山ニ関スル事務ノ如キモ亦然リ蓋シ該島ニ於ケル諸般ノ政務ハ該島カ帝國ノ版圖ニ歸セシ以來總督ノ專管ニ屬シ而シテ拓殖

務大臣ハ其監督ノ地位ニ立テシルモ拓殖務省
ノ廢セラレシ以來其事務ハ内閣臺灣事務局ニ
於テ之レヲ掌理シ居レルモ山林ト云ヒ鑛山ト
云ヒ水産ト云ヒ皆他ノ行政事務ト相異ナリ特
殊ノ性質ヲ有スルモノナルカ故ニ此等事業ニ
對シテハ内地ト臺灣トヲ論セス國家ハ同一ノ
保護監督ヲ為スハ當然ニシテ政令多岐ニ涉リ
主管官廳ヲ異ニスルトキハ廢ニ政務ノ施行上
統一ヲ欠クノミナラス隨テ冗多ノ吏負ヲ要シ
無益ノ經費ヲ糜スルニ至リ且其事業ノ施設モ

亦一定ノ方針ニ依ラサルヲ以テ彼是消長趣ヲ
異ニシ興廢一ナラス到底十分ノ効果ヲ奏スル
ヲ能ハサルハキカ故ニ現今内務省ノ管理ニ屬
スル北海道ノ山林及水産事務並ニ臺灣總督府
ノ主管タル同島ノ山林水産及鑛山事務ヲ擧ゲ
テ之レヲ農商務省ノ主管ニ移サント期セリ
林區署長權限ノ擴張
從來大林区署長ノ職務權限ハ狹隘ニ失ヒ些細
ノ事件ト雖モ一々本省ノ指揮ヲ仰キ形式上ノ
手數ヲ要シタルト斯ナカラズ隨テ事務ノ滯

ヲ来スノ弊アルヲ以テ十月中大小林区署長處
務規程ヲ廢シテ更ニ林区署長職務章程ヲ定メ
大ニ署長ニ委任スルニキ權限ヲ擴張シテ以テ處
務ノ敏活ヲ圖レリ

官有山林原野ノ管理

從來官有林野ノ内官林ノ稱アルモノハ大林區
署ノ管理スル所ニシテ官有山林原野ト稱スル
モノハ府縣廳ノ管理ニ屬シタルモ均シク農商
務省ノ主管ニシテ管理其所ヲ同フセサルカ為
メ處務ノ方針一定セサルノ憾アリ且將來官有

林野ノ整理處分ヲ行ヒ國有林經營ノ方法ヲ確
定セシメハ之レヲ大林區署ノ管理ニ歸セシム
ルヲ以テ便宜ナリト認メタルニ依リ十月十八
日訓令ヲ發シテ府縣廳管理ノ官有山林原野ヲ
舉ゲテ本年十二月廿五日限り大林區署ノ管理
ニ移スコトトセリ

官民有區別申請手續ノ改正ハ政府
官有森林原野ヲ民有ニ引戻シ出願ハ從來地方
長官之レカ當事者ト為リテ處分シ来リタルモ
處分上一切農商務大臣ノ指揮ヲ仰クヲ以テ其

間照會往復等無益ノ手續ヲ要シ隨テ處分ノ延滞ヲ來タスノ憾アリタルヲ以テ八月六日特ニ省令ヲ發シテ官林ニ係ルモノハ大林辰署ニ官有山林原野又ハ御料地ニ係ルモノハ府縣廳ヲ經由シテ農商務大臣ニ申請セシメ大臣自カラ當事者トナリ其推問ノ場合ニ於テハ直接ニ申請者ト往復スルノ便法ヲ設ケ大ニ其處分ノ進行ヲ敏速ナラシメタリ

國有林ノ經營
國有林原ノ處分國有林ノ實測、施業案編成及無

立木地ノ造林、國有保安林ノ増設等ノ如キハ國有林經營上ノ大事業ニシテ皆一朝一夕ニ其竣功ヲ期スニキモニアラサルモ中途斷續弛張スルコトナク終始一貫ノ方針ヲ確定シ豫メ竣功年度ヲ定メテ之カ大成ヲ備テサルヲ得ス故ニ其事業ヲ繼續スニキ年度間ニ於テハ毎年畧同額ノ經費ヲ投セサル可カラズ固ヨリ國費多端ノ今日ニ於テ一般經常ノ歲計ニ向テ多額ノ費用ヲ要求スルカ如キハ財政上許サ、ル所ナシ是等臨時事業ノ財源ハ之ヲ經常ノ歲入ニ

仰カス不要存置林野ノ處分ニ因テ得ヘキ臨時
 歳入約二千有餘萬圓ノ内ヲ以テ之ニ充ツルノ
 計畫ヲ為シタリ

林野ノ整理

抑モ本邦ノ林業發達セシテ林利ノ擧カラサ
 ルハ其原因一ニシテ之ヲスト雖モ一團地ノ森
 林面積狭少ニシテ境界ノ不整、位置ノ不適當ナ
 ルカ為メニ森林經濟上巨大ノ損失ヲ醸スニ至
 レルカ如キハ其一原因ナリト謂ハサル可カラ
 ス試ニ山林局ノ調査ニ係ル左ノ統計ヲ見ヨ

名稱	反	箇	平均一ヶ所反別
一等官林	三百十六万九千六百六十町三反 七畝二十三歩	四千九百四十三	六百町三反四畝四歩
二等官林	六十九万九千六百十六町九反 三畝二十五歩	壹万二千八百十六	五十四町五反五畝壹歩
三等官林	一百三万九百壹町二畝歩	壹万三千四百二十六	八十四町三反廿歩
負外林	二万八千六百六十二町四反九 畝九歩	二万六千四百四十壹	壹町六畝十五歩
禁伐林	三万六千二百二十九町九反壹 畝二十八歩	五千九百九十	六町三反五歩
風致林	壹万七千七百七十六町九反九畝 二十三歩	壹万六千三百六十壹	壹町四畝十壹歩
未定官林	百三十壹万七千八百四十二町六反 壹畝二十七歩	壹万一千百四	百六町六反八畝九歩
官林合計	六百四十二万九千三百九十壹町 三反十五歩	九万一千八十壹	七十四町壹反十歩
民林	七百三十七万二千三百九十六 町歩	二千二十五万七千五百八十七	三反六畝十七歩

ラサレハ保安林ノ實ヲ舉ケ難キモノ、官林作業
ヲ施スニ有益ニシテ所有主ノ買上ヲ望ムモノ
其他官林内ニ存在シ若クハ官民林ノ境界斗入
突出シテ官林ノ作業保護ニ便ナラス之レヲ買
上ルモ地方人民ノ困難トナラサルモノ、如キ
ハ國有林ニ編入スル等其標準ヲ定メテ著々之
レヲ調査ヲ為シ賣買又ハ交換ノ處分ヲ断行シ
テ以テ林地ノ整理ヲ畜リ而メ其事務ニ從事セ
シムル為メ特ニ相當ノ職員ヲ置キ三十一年度
ニ於テハ臨時費トシテ四萬五千圓餘ノ豫算ヲ

立テ三十二年度ヨリ國有林ノ經營ト共ニ向テ
十年間ノ繼續費ヲ要求セシメテ期セリ
森林保護方法ノ改善並ニ官吏ノ
林區制度設置以來官林ノ保護取締ヲ舉テ之ヲ
小林區署ノ業務ト為シ小林區署ノ下ニ保護區
ヲ設ケ保護區負ナル簿給ノ官吏ヲ置キテ之ニ
當ラシメ今ハ全國ヲ通シテ三百小林區署ノ下
ニ一千保護區ノ設置ヲ見ルニ至リ一千個ノ
保護區敢テ少シト謂フヘカラス然リト雖モ官
林全面積約七百三拾八萬町歩ニ配當スレハ其

分擔面積七千三百八拾町步ニシテ之ヲ一團ノ
林地ト見做スモ實ニ五方里弱ノ大面積ナリ況
ンヤ本邦官林ノ位置配布ハ大山脈ト二三地方
ヲ除クノ外ハ恰モ基石ヲ局面ニ投シタル如キ
狀況ナルヲ以テ一保護區ノ廣袤十數里ニ亘ル
モノ少シトセス斯ノ如キ狀況ニシテ寧ソ能ク
保護取締ノ周到ヲ望ミ得ヘケンヤ然ラハ保護
區ヲ増設シテ仮リニ官林面積一方里ニ付一個
ノ比率トセシカ五千ノ保護區ヲ置カサルハカ
ラス經費ノ増加ハ暫ク措テ論セサルモ所謂五

十步百步ノ論ハニ況ニヤ四千保護區増設ニ係
ル經費ハ少クモ毎年六拾萬圓ノ巨額ヲ要シ現
今官林經濟上ノ許スヘキ所ニテササルニ於テ
先ヤ我舊藩治ニ於テハ各藩其制ニ小
借、我舊藩治ニ於テハ各藩其制ニ小
異アリト雖モ藩林ノ管理機關ハ郡奉行若クハ
特設ニ山奉行ヲ主腦トシ多階級ノ補佐役ヲ
以テ組織シ官林ノ保護取締ニ至テハ之ヲ擧ケ
テ村吏及地元人民ノ義務ニ委シ其報酬トシテ
副産物ノ如キハ多クハ地元人民ヲシテ無料採

収セシメ之ヲ約言スレハ世ニ所謂官民共利ノ
主義ナリキ故ニ地元人民ハ官林ト利害ヲ共ニ
シ官林ヲ見ルニ猶自林ノコトクニシテ微罪ト
雖モ盡ク之ヲ叢覺スルヲ得一朝森林ニ暴モ恐
ルヘキ災害タル火災ノ起ル場合ノ如キハ令セ
ズシテ數百ノ壯丁立トコロニ集リ身ヲ忘レテ
其防禦ニ從事セルカ如キハ實ニ我森林行政上
ノ特長ト謂フヘクシテ恐クハ他邦ニ其類ヲ見
サル所ナラン然ルニ林區制ヲ設クルニ及ビ純
然タル官吏ヲ以テ官林ノ保護取締ヲ為サシム

ルニ依リ人民ト官林トノ關係ハ甚ク疎遠トナ
リ恰モ其間ニ障壁ヲ築カレタルカ如キ感ナキ
ニアラズ是ヲ以テ人民ノ官林ニ對スル善意ハ
一變シテ冷淡トナリ再變シテ惡意トナリ森林
官吏ヲ見ルニ仇敵ノ如ク官林ヲ見ルニ厄双物
ノ如クナルハ一般ノ狀勢ト云フモ敢テ過言ニ
アラサルカ如シ村民同盟シテ保護區官舎ノ借
リ上ヲ拒ミ森林官吏ノ宿泊ヲ拒絕スルカ如キ
ハ余ノ屢之ヲ耳ニスル所ナリ
近來林政ヲ非難スルノ聲漸ク昂マレルハ種々

工業行政の施設

本邦ノ工業ハ既ニ緒言ニ於テ概述シタルカ如ク以年隆昌ヲ加ヘ明治二十九年末ニ於ケル全國工場ノ數ハ職工十人以上ヲ使用スルモノ七千六百三十一ニシテ之ニ使用スル男女職工ノ數ハ四十三萬三千四百八十人男十七萬三千六百五十五人 女二萬六千五百三十一人ニ達セリ而シテ此等ノ工場ハ一時ノ氣運ニ乘シテ勃興シタリト雖モ今々對外競争上及各自競争上工場ノ經濟及整理ヲ計リ生産費ヲ省減シテ製品ノ價格上優勝ノ地位ニ立ツヲ

期スヘキノ必要ヲ生セリ因テ先ツ工場法ヲ制定シテ工場ノ整理ヲ計リ且工業監督官ヲ置キ常ニ各地方ヲ巡回シテ工場ノ監督、勞働者ノ使役及保護ノ實蹟ヲ調査セシメ又工業試験所ヲ設立シテ各種ノ試験ヲ行ヒ以テ工業ノ發達ヲ裨補セントシテ期セリ
工場法ノ制定
現今本邦工業ノ趨勢ヲ觀ルニ家内工業ハ漸ク變移シテ工場工業ヲラントシ此等工場ニ於ケル工業主職工間ノ關係ハ親睦協和恰モ家族師

弟タルカ如キ情誼漸ク去テ階級の間隙稍、其
跡ヲ現サントセリ是レ實ニ工場工業ニ伴フ所
ノ必然ノ結果ニシテ之ヲ各國歴史ニ徴スルニ
皆然ラサルハナシ斯ク情誼ノ關係既ニ衰頽シ
テ之ニ代ルヘキ法律上ノ關係確立セサルヲ以
テ雇者被雇者ノ規律頗ル紊亂シ雇者ハ被雇者
ノ轉帳移動スルニ苦ミ被雇者亦往々ニシテ雇
者ノ壓抑ニ屈從スルヲ悲境ニ沈淪スル者アリ
其間誘導爭奪ノ弊既ニ起リ教唆強要ノ風亦將
サニ漸ク行ハレントス此時ニ當リ之ヲ一般ノ

趨勢ニ鑑ミ之ヲ本邦ノ實情ニ照シ大體ノ法規
ヲ設ケテ二者ノ關係ヲ律シ一面以テ工業者ノ
為メニ其事業經營ノ確實齊整ヲ畜リ一面以テ
勞力ノ強健ト風儀ノ端正トヲ企ツルモ是レ
我工業ヲシテ健全ナル發達ヲ遂ケシムルニ最
モ必要ノ事業ナリトス加旃凡ソ工場工業ナル
者ハ其効果ノ顯著ナルト同時ニ之ニ要スル設
備完全ヲ欠クトキハ往々人命ヲ危クシ災害ヲ
以隣ニ及ホスヲ免カレス而シテ其設備ヲ完全
ナラシメンニハ政府ノ監督ヲ要スルモノ亦甚

タ多シ是レ特ニ工場法ノ制定ヲ要スル所以ナ
リトス固ヨリ本問題ハ工業者及労働者ノ利益
ニ直接大關係ヲ及ホスモノナルヲ以テ仮令外
國ノ事例ニ徴シ自然ノ趨勢ニ依リ能ク前知シ
得ヘキモノアルモ猶ホ法令ヲ以テ一朝急激ノ
變化ヲ加フルハ國家經濟上大ニ考慮ヲ要ス一
キモノナルカ故ニ本法ハ暫ク大體ヲ規定シ算
ニ大綱ヲ示シ弊害ノ最モ甚シキモノヲ豫防ス
ルニ止メ而シテ工業監督官吏ヲシテ本法ノ實
施ヲ監視セシムルハ傍ヲ常時工場ノ状態ヲ調

査セシメ其結果ニ基キテ詳ニ利害得失ヲ衡量
シ将来工場工業ノ進歩ニ應ジテ其規律ヲ正シ
以テ雇者被雇者ノ調和ヲ計ラシコトヲ長期セ
リ

工業監督官ノ新設

工業ノ駿々トシテ長足ノ進歩ヲ為スト共ニ
労働問題其他錯雜ナル事件ノ發生スルハ當然
ノ勢ニシテ之カ監督ノ方法ヲ設クルハ實ニ刻
下ノ急務ナルヲ以テ監督官ヲ新設シテ常ニ製
造所工場ヲ監督シ労働者ノ使役及保護ニ関ス

ル實況ヲ調査シ其成績ノ良否ヲ審察シテ以テ
既ニ發セラレタル及將ニ發セラレントスル各
種工業法ノ運用ヲ圓滑ナラシメ併セテ地方産
業ノ変遷消長ノ事蹟ヲ精査シ以テ工業行政ヲ
舉クルノ便宜ヲ備ランヤク期セリ

工業試験所ノ設置

近代ノ工業ハ學理ヲ基礎トシ其改良進歩ハ學
理實驗ノ成績ヲ應用スルノ結果タルニ外ナラ
ズ今ヤ本邦ノ工業漸ク刷新ノ氣運ニ向ヒ模範
ヲ外國ニ取リテ新規ノ工業ヲ興起セントスル

ニ當リ或ハ輸入原料ノ検査試験ヲ要シ或ハ輸
出製品ノ分析證明ヲ要スルアリ或ハ確實ナル
試験ノ成績ニ基キ改良ノ方策ヲ立ツヘキモノ
尠ナカラズ例ヘハ花筵、段通、各織物ノ染色ノ不
完全ナル、漆器ノ乾濕ノ變化ニ依リテ變形シ易
キ、陶磁器ノ破碎シ易キ、煉炭ノ粘合劑及麻網防
水布ノ塗料ノ不完全ナル、舶來染料ノ撰用不充
分ナル、麥酒釀造ニ和製原料ヲ使用セサル、石鹼
ノ硬固ナル能ハサル、煉乳ノ白色ナル能ハサル
其他石炭、石油、薪材等ノ燃力試験ノ途ナキカ為

メ工業者ノ損失多キ、建築材料タル木、石、鐵、セメント、煉瓦等ノ材力調査充分ナラサル為メ家屋工場其他ノ構造物ニ危険多キ等凡ソ研究試験ヲ要スヘキモノ殆ント枚擧ニ遑アラサルナリ
歐米諸國ノ如キ工藝技術ノ發達セル地ニ於テモ尚ホ試験所ヲ常設シテ終始工業上ノ研究ニ從事センハ例ハ、瑞西國チユリヒ府ニ於ケル試験所、如キ奧國工藝列品所ニ於ケル木材、金屬、化學的工業、電氣工藝、紙質及建築材料ニ關スル試験ノ如キ獨逸ニ於ケル官設試験所即チ組

織最モ完備セル伯林ノ普國試驗所及ブラオン
シワイロ、ケムニイツ、ハンブルヒ、カールスルー
エ、ミエンヘン、スチユットガレド等ノ各試験所
ノ如クニシテ其他私立ノ試験所モ亦少シトセ
ス而シテ試験所ノ工業ニ裨益ヲ与ヘタル一例
ヲ擧ケレハ從來セメント業ノ如キハ英國ノ專
有ニ歸シタルモ普國試驗所ハ學理ヲ應用シ製
造費ヲ節減シ嚴格ナル試験ニ依リ品質ヲ一定
ニスルヲ得、當ニ外國輸入品ヲ防止セルノミ
ナラス、現今却テ同國ヨリ米國ニ輸出スルノ歐

況ヲ呈スルニ至レリ又近年獨逸ノ製鉄産出額
ノ英米ニ亞キ其銅鉄工業ノ英國ヲ凌駕スルニ
至リタル其他ヨール、タール、ヨリ各種ノ色料、藥品
ヲ採収シ甜菜糖製造ノ事業ヲ進歩セシメタル
カ如キハ皆試験所ノ功績ニ由ラスンバアラス
然ルニ退テ本邦ノ實況ヲ觀レハ帝國大學及工
業學校ノ如キ些少ノ試験ニ関スル設備アルモ
是等ハ皆教習ヲ以テ其專務ト為スモノニシテ
其他ハ内務省衛生試験所ニ於テ醫用藥品ヲ分
析スルハ傍水、石鹼、鑛石、油類ノ定量分析ヲ為シ

農商務省鑛山局地質課ニ於テ鑛石、天然人造セ
メント原料等ノ分析證明ヲ為スニ過キス一個
人一會社ニ至リテハ巨多ノ費用ト装置トヲ要
スル試験調査ヲ為スノ餘裕ヲ有セサルト固ヨ
リ論ヲ俟タス況ンヤ我工業者ノ狀態ハ目前ノ
小利ニ汲々トシテ技術ノ改良及工業ノ經濟ニ
注意セサルノ通弊アルニ於テオマ幸ニシテ以
年債銀低廉ナルニ依リ工業振興ノ觀ヲ呈シタ
ルモ今ヤ益債銀ノ騰貴ヲ來タスノ傾向アル以
上ハ債銀ノ一點ニミテ依賴スルイナク更ニ技

術上ニ於テ各國ト競争角逐スルノ覺悟ナカレ
ヘカラス是レ實ニ工業試驗所ヲ官設スルノ必
要ナル所以ニシテ本所ハ之ヲ分テテ化學機械
電氣ノ三部ト為シ廣ク官民ノ請求ニ應シ諸般
ノ試驗檢定ヲ施シテ責任アル證明ヲ與ヘ又自
カラ進ンテ各種工業ノ研究ニ從事シ其成績ヲ
公ニシテ技術上ノ指導ヲ為シ以テ本邦工業ノ
發達ヲ裨補センテ期セシモ本年度ハ財政ノ
之レカ設置ヲ許サ、ルニ依リ更ニ來年度ニ於
テ其設置ノ計畫ヲナサンコトニ決定セリ

商品陳列館ノ新築

商品陳列館ハ昨年四月貿易品陳列館トシテ本
省内ノ一隅ニ創置セラレタルモ主任官吏其人
ヲ得サルカ為メ開館ノ期遷延シテ漸ク本年二
月ニ至リ始メテ之ヲ開クテ得タリ尔來處務
ノ方法物品ノ排列等頗ル不整頓ナリシモ本省
ノ官制改正ニ依リ本館ハ商務局ノ付屬ト為リ
主任官吏交迭シテ以テ大ニ其業ヲ刷新ヲ畜リ
外國貿易品ノミニ局限セスシテ一般商品ヲ陳
列シ且入場料ヲ徴セスシテ廣ク衆庶ノ觀覽ニ

供スルト為シ諸般ノ施設漸ク其緒ニ就キシ
ヲ以テ世人モ亦漸ク其効益アルヲ認ムルニ至
リ獨リ内國人ノ出品及寄贈ニ係ル各種ノ標本
日ニ益々其數ヲ増加スルノミナラヌ外國人ノ
出品モ亦續出セントスルノ好況ヲ呈シ僅カニ
本省建物ノ一隅ヲ以テ其陳列場ニ充ツルカ如
キハ到底狹隘ヲ免カレスシテ廣ク内外國人ノ
希望ニ應シ其出品若クハ寄贈品ヲ陳列スルヲ
得サルニ依リ現今宮内省ニ於テ保管スル所ノ
舊工部大學校跡ノ建物ヲ同省ヨリ讓受ケテ其

陳列場ニ充ツルノ議アリタルモ同省ニ於テ事
情ノ許ササルモノアリタルヲ以テ之ヲ止メ遂
ニ本館ノ側ニ一字ノ陳列場ヲ増築シテ其目的
ヲ達セントスル期シ来年度豫算ニ於テ其經費ニ
萬圓ヲ要求シタリ

新設 商事監督官ノ新設

商務行政上商事會社、取引所、保險事業、倉庫事業、
商業會議所、商業ニ関スル同業組合、市場其他商
業上各種ノ機關ニ就キ監督ヲ實テ舉クルノ上
ニ於テ商事監督官ヲ置キ常ニ各地方ヲ巡回セ

シメテ以テ法律ノ施行ヲ完クシ傍ラ其事業ノ
利害得喪ヲ督察シ以テ施政ノ便ヲ備ルハ極メ
テ緊要ノ事ナリト信スルニ依リ三十一年度ヨ
リ之レヲ實施セント欲シ之レニ要スル經費ノ
豫算ヲ立テリ

生絲直輸出獎勵法ノ廢止

明治三十年法律第四十八號ヲ以テ發布セラレ
タル同法ハ當局者カ深ク其利害ヲ考究セズ單
ニ一部少數實業者ノ説ヲ聞キ倉卒ニ制定シタ
ルモノニシテ其實施期限ハ來ル三十一年四月

一日ヨリ五ヶ年間之ヲ實施スルヲ目的ナルモ
締盟國トシテ改正條約實施後ニ於テ獨リ本邦當
業者ノミ其保護ヲ享クルニ止ラズシテ外國
人モ亦之レニ均霑セサルヲ得サルニ至ルヘシ
而シテ外國人之レニ均霑スルトモ其之レニ
要スル所ノ獎勵金ハ頗ル巨額ニ上ルニキリニ
ナラス本邦當業者ヲ保護シ直輸出ノ獎勵ヲ備
ルノ上ニ於テモ亦著シキ效果ヲ収ムルコト能
ハサルトクシテ勢ニ遂ニ之ヲ廢止セサルヲ得
サルニ至ラン繼令改正條約實施ノ以前ニ於テ

強テ本邦ヲ施行セントスルモ其間僅々一年有
餘ニ過キス此短日月ノ間ニ於テ其實績ヲ擧ケ
ント欲スルハ頗ル難事ニ屬シ徒ラニ當業者ヲ
シテ其方途ニ迷ハシメ企業ノ安固ヲ欠キ却テ
斯業ノ進運ヲ妨クルノ憂アルニ依リ其實施以
前ニ於テ之レヲ廢止セント欲シ其議ヲ提出シ
タリ

農商工統計ニ関スル特別調査
農商工諸業ニ関スル統計ヲシテ精確明瞭ナラ
シムルハ其國經濟上ノ状態ヲ知悉スルノ上ニ

於テ極メテ緊要ノ事ニ屬セリ然レニ從來農商
務省於テ刊行シ來レル農商務統計表ナルモ
ハ地方廳ニ於テ單ニ同省訓令ノ統計様式ニ
則テ郡區市町村ニ令達シ各營業者ニ就キテ
其材料ヲ採輯セシメ之レヲ同省ニ報告スルヲ
俟テ同省ノ大臣官房文書課ニ於テ之ヲ編纂刊
行スルモノニシテ其統計事項粗雜ニシテ採輯
方法、鹵莽ナルカ為メ注々明瞭ヲ欠クノ憾ヲ
ルヲ以テ新ニ該統計ニ関スル特別調査委員ヲ
設ケテ斯業ニ對スル改善ノ事項ヲ調査セシメ

以テ農商ニ関スル實情ヲ觀察スルニ足ルハ
キ完全ナル統計書ヲ編製スルヲ努メタリ

保險法ノ制定

保險事業ハ近來大ニ發達シ組合若クハ會社組
織ニ依リ營業スルモノ甚ク多キヲ見ルニ至リ
タルモ今日ニ在テハ未ク其事業ニ對シテ監督
制裁ヲ加フヘキモノナキヲ以テ其間弊害百出
シテ底止スル所ナキノ勢アリ顧テニ保險ハ或
ル特種ノ危險ヲ擔保スル所ノ事業ニシテ多數
ノ人ト永年ノ關係ヲ生スルモノナルヲ以テ確

定ノ資本金ニ對スル信用ニ依リ營業スル株式
會社カ又ハ被保人相互ノ信用ニ依リ成立スル
相互會社ノ如キ永遠ノ信用ヲ維持スルニ堪エ
ヘキモノナラサルヘカラヌ(株式會社ト相互會
社ニ限ル立法制ハ八十五年瑞西保險法九十六
年奧國保險會社法、コトヘン氏ノ獨逸保險法草
案、九十七年ノ那威保險法案其他北米諸州ノ法
律等)又株式會社ナレハ相當ノ金額以上ノ資本
ヲ有シ(奧國保險種類ノ一ニ付十萬マルク、以
上而シテ一種類ノ保險ヲ行フニハ三十萬マルク)

以上基本統計表豫定利率及之レニ據テ算
出シタル純保餘料等一定ノ營業原則ニ由テ行
動スヘキモノタラサルヘカラス故ニ其事業ヲ
經營スルニ當テハ必ス官ノ免許ヲ受クルヲ要
シ且ツ營業上其ノ監督ノ下ニ立テ特別法律ノ
制裁ヲ受クルハ極メテ必要ノ事ナリトス蓋シ
斯ノ事業ヲ監督スル官廳ハ國ニ依テ各同カラ
ス保險監督ハ豫防警察ノ事務ナリトシ之ヲ内
務省ニ屬セシムルハ歐洲大陸諸國ニ多ク商取
引ノ監督トシテ之ヲ商務省ノ主管ニ屬スルハ

英國ニシテ保險ノ種類ニ依リ監督官廳ヲ異ニ
スルハ李國ナリトス蓋シ本法ハ制定當初一般
ノ法律ト關聯セリトノ理由ニ依リテ法典調査
會ニ於テ之レヲ制定セシトスルノ議アリタル
モ保險業ノ如キ一般ノ經濟ニ關係スルモノハ
農商務省ニ於テ之ヲ制定スルノ適當ナルヲ認
メタルノミナラス從來同省ハ斯事業ノ監督獎
勵ヲナシ居レルヲ以テ該調査會ノ調査ヲ俟タ
スシテ同省ニ於テ之ヲ起草セシムルコト、セ
リ

鑛山監督署ノ増設

現今鑛山監督署ハ東京、大阪、福岡、札幌、盛岡ノ五ヶ所ニ在リテ其設立ハ明治二十五年ニ在リ當時我鑛業尚ホ極メテ幼稚ニシテ鑛産價額ハ僅ニ今日ノ半ニ過キス採掘鑛區ノ數ハ二十四年ニハ三千五百七、其坪數一億二千三百萬餘ナリシニ二十八年ニハ増シテ鑛區數四千二百七十六、其坪數ハ二億八千四百萬餘ト為レリ又政府カ鑛業稅トシテ徵收シタルモノヲ見ルニ二十八年度ハ二十四萬七千餘圓ナリシニ三十年度

ニハ鑛業稅、登錄稅、出願手数料、鑛業區稅ヲ合シテ七拾叁萬餘圓ト為レリ鑛業進步ノ割合ハ三年ニ割ニ滿タスシテ其租稅ハ三年間ニ三倍ノ増徵ヲ為セリ其負擔ノ輕重如何ハ姑ク之レヲ措クモ鑛業者負擔ノ増加シタルハ實ニ著シト謂フヘシ政府ハ斯ク鑛業者ノ負擔ヲ増加シタルニモ拘ハラズ其保護監督ハ却テ年々退步ノ實アルヲ見ル即チ二十五年鑛業不振ノ時ニ在リテハ監督署ノ經費年十二萬餘圓ナリシニ鑛業振興ノ今日ハ却テ減シテ六萬餘圓トナリシ

ヲ以テ監督署ハ己ムヲ得テ吏負ヲ減シ廳費旅
費ヲ節スルニ及シ鑛業ハ駸々トシテ日ニ月ニ
其歩ヲ進ムルカ為メ一二ノ監督署ハ出願書類
机上ニ山ヲ為シ暑中休暇ヲ廢シテ其整理ニ從
事スルモ未濟事件ハ尚ホ今日ニ於テ七千有餘
件ノ多キニ達セリト云フ三十一年度ニ於テ廣
島ニ一監督署ヲ增置シ吏負若干ヲ増スノ豫案
ヲ要求シ且將來新潟福岡ノ如キハ一縣ニ一署
ヲ置キ相當ノ吏負ヲ配置シテ其事務ヲ措辦セ
シメ以テ大ニ鑛業行政ノ整理ヲ圖ラシムル期

シタリ
要概
之尾銅山ハ古河市兵衛其借戻人トナリタル以
來盛ニ採掘ニ從事シタルノ結果明治十八九
年頃ヨリ渡良瀬川沿岸ノ地ニ於テ該銅山ヨリ
流出スル銅毒ノ為メ農作物漸ク損害ヲ蒙ルニ
至リタルヲ以テ第一回帝國議會ニ於テ田中正
造等ハ該坑營業停止ノ議ヲ主張シタルモ當時
政府ハ單ニ鑛山局長和田維四郎技師野呂景義

技師試補山際永吾等ヲ該坑ニ派遣シ粉鑛採収
器ヲ裝置シ沈澱池ヲ設ケシメテ以テ銅毒ノ流
出ヲ豫防スルノ計策ヲ取リタルノミニシテ被
害地人民ニ對シテハ別ニ坑主ヨリ損害ヲ賠償
セシムルコトナリ一時ノ姑息手段ヲ以テ此
ノ事件ヲ彌縫シタルニ過キス然ルニ其後坑業
益盛大ナルニ随テ鑛毒ノ流出年々逐テ益多キ
ヲ加フルニ至リ田中正造等亦毎回ノ議會ニ於
テ屢政府ノ反省ヲ促シタリト雖モ鑛山局長及
鑛山監督署長ノ如キハ皆和田維四郎等カ設計

シタル姑息ノ豫防法ヲ以テ充分ニ銅毒ノ流出
ヲ防止スルニ足レリト為シ敢テ之ヲ顧ミス僅
ニ農務局長及其局員等カ農作物ノ被害ヲ説ク
ノミナルヲ以テ農商務省ハ該銅山ニ對シテ更
ニ何等ノ處分ヲ施シタルコトナシ故ヲ以テ被
害地人民ハ當春來大ニ激昂シ遂ニ都下ニ聚訴
シテ輿論ヲ喚起スルニ至リシカ時偶ニ余農商
務大臣兼任ノ命ヲ拜セシヲ以テ就職後直チニ
其主管事項ニ就キ大ニ考慮スル所アリ特ニ鑛
山學士堀田連太郎ヲ民間ヨリ擧ケテ此任ニ當

ラシメ五月二十七日ヲ以テ内閣ニ稟請シ責任
官吏ヲ免黜スルト同時ニ鑛業條例第五十五條
ニ依リ坑主古河市兵衛ニ對シ煙毒ニ関シテハ
大煙突ヲ建設シ脫硫塔ヲ裝置セシメ水ニ関シ
テハ沈澱池及濾過池ヲ設ケシメ廢石及鍍ハ之
ヲ指定地ニ置カシムル等三十七項ニ涉レル豫
防命令ヲ發シ特ニ監督官ヲ派遣シテ其工事ヲ
監督セシメ日ヲ刻シテ之ヲ竣成セシメタリ本
件ハ詳細ハ鑛山技監ノ報告ニ讓ル又足尾官林
復舊工事ハ經費大九十萬圓餘ヲ要スルモ本年

度ニ於テハ先ツ第二豫備金ヨリ三萬壹千壹百
十壹圓ノ支出ヲ要求シ其林積壹萬三千五百町
步中現ニ林相ヲナセルモノ九三千町步ヲ除キ
殘餘壹万町步ノ内七千町步ニ野生ノ雜樹ヲ養
護シテ林相ヲ回復スル為メ本年度内ニ於テ延
長四十一里餘ノ防火線ヲ設置シ三千町步ハ本
年度ヨリ三ヶ年内ニ於テ造林ヲ完了セシムル
ノ設計ヲ以テ五月廿七日其施業方法ヲ東京大
林區署ニ訓令セリ爾來大林區署ハ其方法ニ基
キ本年度ヨリ著手シ初年ノ造林面積七百九十

四町歩ノ内五百二十二町歩ハ扁柏杉落葉松等
ヲ新植シ二百七十二町歩ハ野生ノ椎樹ヲ養護
シテ成林セシムル為メ手入事業ヲ施シ十一月
中ニ成功シ又防火線ハ十月中ニ竣功シ其實行
ノ結果延長三十七里トナレリ
又渡良瀬川及桐生川上流ニ於ケル民有山林ニ
シテ水害防備水源涵養土砂扞止等ヲ為メ必要
ナル箇所ハ總テ保存林ニ編入スルコト其區域
ノ民有山林ニシテ林相荒廢セル箇所ハ所有者
ニ懇諭シテ速ニ造林ヲ為サシムルコト其他ニ

三ノ事項ヲ五月二十七日栃木群馬兩縣ニ訓令
シテ足尾銅山ニ起因スル水害豫防ノ處理ヲ為
サシムルコトセリ因テ栃木縣ニ於テハ其民有
山林中保存林ニ編入ノ必要アルモノハ既ニ之
ヲ調査シ目下本省ハ稟申中ナリ

鑛業條例及砂鑛採取法ノ改正

鑛業條例ハ日本坑法ニ从スレハ我帝國ノ鑛業
ニ裨益ヲ與ヘタルコト尠カラスト雖モ本邦鑛
業ノ進歩ハ現行條例實施ノ當初ト大ニ事情ヲ
異ニスレモノアリ例ハ試掘人カ其鑛區内ニ

採掘シ得ヘキ鑛物存在スルモ納税ノ義務ヲ避
ケンカ為メ採掘ノ出願ヲ為サ、ルコト、現行條
例ハ侵掘ノ場合ニ於テ制裁嚴密ナラサルカ為
メ炭坑ノ如キハ近來侵掘者大ニ増加スルコト、
鑛區ノ増加スルニ隨テ私權ト公權トノ衝突ヲ
生スルモ之レニ對スル法文ノ不備ナルコト等
ハ現行條例ヲ改正スヘキノ要點ナリトス又砂
鑛採取法ハ其發布(明治廿六年)ノ初其以前ニ許
可シタル砂鑛採取特許ヲ廢分スルノ規定ヲ欠
キタルカ為メ今日ニ至リ鑛區判然セサルモノ

アリ又採取人ノ姓名公簿ニ記載ナキモノ數多
アリ依テ此等ヲ廢分スルノ法規ヲ設ケ以テ鑛
業行政ノ整理ヲ圖ルハ目下極メテ必要ノ舉ナ
リト信ス

其他ノ鑛業行政ノ施設

鑛業行政ニ関シテハ前記ノ外尚ホ鑛業統計ノ
改善ヲ圖リ日本鑛業史及鑛山聯絡圖ノ編纂ヲ
企テ且規模廣大ナル鑛山ニハ相當ノ學術技藝
ヲ有スル技師ヲ置キ農商務省ノ認可ヲ受ケン
ムルノ制ヲ設ケントスル等鑛業ノ發達進歩ヲ

畜ルノ上ニ於テ畫策セシ所ノモノ少カラス

製鍊所ニ関スル事務

製鍊事業ハ軍備ノ擴張、工業ノ發達、鍊道事業ノ勃興ト共ニ其必要ヲ感スル一益、多キヲ加ヘ明治二十四年中海軍省ヨリ其創立豫案ヲ議會ニ提出シタルモ當時同省ハ大ニ信用ヲ世上ニ失ヒタルヲ以テ遂ニ其成立ヲ見ルニ至ラザリシカ翌二十五年ニ至リ該事業農商務省ノ主管ト為ルヤ後藤農商務大臣ハ之ヲ官設スルヲ以テ不可ト為シ相當ノ補助金ヲ下付シテ之ヲ民

業ニ委スルノ議ヲ取リ内閣モ亦之レヲ賛成シタリ然ルニ榎本子代リテ農商務大臣ト為ルニ及ンテ更ニ前議ヲ翻シテ之ヲ官設スルニ決シ遂ニ野呂技師ノ設計ニ係ル一ケ年九ツ六萬噸(三萬五千噸ハベスメル鋼、二萬噸ハマルチン鋼、四千五百噸ハ鍊鍊、五百噸ハ坩堝鋼)ヲ製出スルキ製鍊所ヲ設立スルノ計畫ヲ立テ廿九年度ヨリ四ケ年間ノ繼續費トシテ創立ノ經費四百九萬五千七百九十三圓四十錢ヲ要求シ廿九年四月遂ニ製鍊所ノ設立ヲ見ルニ至リ長官以下職

負ノ任命アリ長官ハ留テ創立ニ関スル諸般ノ
準備ニ從事シ技監ハ出テ、歐米ヲ巡回シ機械
購入顧問技師傭聘ノ任ニ當レリ然ルニ余ハ就
職以來熟々同所事業ノ状況ヲ觀察スルニ長官
ハ倫安姑息敢テ諸般ノ準備ヲ為スナク技監
モ亦僅ニ機械ノ購入ヲ了シタルノミニテ未タ
適良ナル顧問技師ヲ傭聘スルヲ能ハサルヲ以
テ遂ニ断然長官ヲ黜ケ堀田鑛山技監ヲシテ臨
時其事務ヲ攝理セシメ以テ著々其事業ヲ進メ
且屢歐米巡回中ノ技監ニ訊電シテ専ラカテ顧

問技師ノ傭聘ニ盡サシメタルモ當時歐洲大陸
ハ到ル處製鍊事業旺盛ヲ極メ随テ適良ノ技師
亦甚ク乏シキヲ以テ遂ニ止ムヲ得ス技監ヲシ
テ單ニ製鍊所ノ設計ノミヲ携ヘテ歸朝スルニ
至ラシメタリ尋テ和田維四郎ヲ舉ゲテ長官ト
為シ以テ其事業ヲ規畫セシメ且有名ナル獨逸
製鍊工師ノ清國ニ在留スルヲ聞キ十月中同人
ヲ清國ニ派遣シ傭聘ノ約ヲ結ハシメ技監携歸
ノ設計ニ基キ傭工師ノ意見ヲ聞キ更ニ其事業
ヲ擴張シテ以テ之レカ大成ヲ期スルノ計畫ニ

テアリキ

漁業法ノ制定

現行漁業ニ関スル法令ハ明治九年太政官達第
 七十四號ニ據リ從來ノ慣行ニ從フト云フヲ以
 テ基礎ト為セルモ維新後慣行ノ変遷少カラズ
 シテ注々漁業上ノ紛議ヲ生シ且酷捕濫獲ニ陷
 リ其弊ニ堪ヘサルモノアルヲ以テ公有水面ノ
 使用水族繁殖ノ保護漁業組合漁業ノ監督取締
 漁業免許及許願其他漁場ニ関スル事項等ニ就
 キ特ニ漁業法ヲ制定シテ漁政ノ整理ヲ備ル

ヲ期セリ

遼洋漁業ノ獎勵及監督

本邦遼洋漁業ノ現況ヲ見ルニ昨二十九年ニ於
 ケル臘席臘胸獸獵ニ從事スル漁業者五名其船
 數十端艇五十二乘組員百九十六獵獲ノ臘席ニ
 十二臘胸獸三千三百十九ニシテ捕鯨業ハ尚ホ
 從來ノ鯨網代ニ依リ未ク遼洋漁業ノ域ニ達セ
 ス僅ニ千葉縣下ニ於テ九十五噸ノ帆船一隻ヲ
 以テ捕鯨ニ從事セントスルモノアルニ過キス
 其他鯨鮪鯖鱈鰻等ハ遠ク數十里ノ遼洋ニ於テ

漁獵スルモ漁船ノ脆弱ナルカ為メ難破ノ虞アルヲ以テ魚類群集スルモ手ヲ空フシテ歸航セサルヲ得サルノ狀況ナリ又外國出稼漁業者ハ未タ極メテ精確ナル統計ヲ得サルモ朝鮮海漁業ハ二十八年ニ漁船八百四十三艘、漁夫三千四百十人、二十九年ニ漁船四百九十五艘、漁夫二千百九十六人ニシテ露領薩哈連島漁業ハ二十八年ハ漁場主二十人、収入價額三十三萬。七十圓ニシテ二十九年ハ漁場主二十五人、収入價額五十八萬四千六百。八圓ナリトス之ヲ要スルニ

遠洋漁業ハ將來ニ於テ大ニ發達ヲ助長スルニキ
ノ要アルニ依リ曩ニ遠洋漁業獎勵法ヲ發布アリ
來ル三十一年四月ヨリ之ヲ實施セラルヘキ
ヲ以テ其準備トシテ獎勵金ノ下付、遠洋漁業ノ
監督并技術者ノ養成等ニ関スル事項ヲ規定シ
タリ

海獸保護會議ニ委任派遣

米國政府ハ北太平洋及白令海ニ於ケル膾炙
保護問題ニ関シ日露英米四ヶ國聯合シテ其保
護ノ方法并ニ漁獵區域等ヲ協商スル為メ同國

華盛頓府ニ於テ該保護會議ヲ開設スルニ依リ
我帝國政府モ亦特ニ委員ヲ簡派シテ之レニ参
列セシメシムルヲ照會シ来リ且同國政府ノ官吏
亦該政府ノ意志ヲ齎ラシテ本邦ニ來航シ大ニ
勸誘スル所アリタルヲ以テ帝國政府ハ乃チ藤
田農務局長及箕作理科大學教授ヲ以テ同會議
委員ト爲シテ該地ニ派遣シタリ然ルニ英國政
府ハ日露兩國委員ノ列席スル會議ニハ参同セ
ズトノ異議ヲ提起シタルモ斯ノ如キハ帝國政
府ニ於テモ固ヨリ豫期スル所ナリシヲ以テ余

ハ委員ニ訓令シ米國政府ニ對シテ好意ヲ表セ
シメ遂ニ日露米三國會議ヲ開キ以テ我カ權利
ノ擴張ヲ備ルルヲ努メタリ

農會法制定ノ中止

農會法制定ノ本旨ハ農業ノ改良進歩ヲ計ルノ
目的ヲ以テ團體ヲ組織シ農民ヲシテ強制的ニ
其團體タル農會ニ加入セシメントスルニ在リ
テ五二會一派ノ實業者頗ニ其制定ノ必要ヲ説
キ政府ニ請願スルニ數次ニ及ビ政府モ亦曩ニ
農會法案ヲ第三回帝國議會ニ提出シ該法律ノ

規定ニ據リ設立セラレタル農會ニ對シテハ相
當ノ國庫補助ヲ与ヘントシテ備リタルモ偶ニ該
議會解散セラレタルカ為メ遂ニ其成立ヲ見ル
ニ至ラザリシ然ルニ實業者中頻ニ當局者ニ向
テ其發布ヲ促スモノアルヲ以テ本年ニ至リ其
可否ヲ地方長官ニ諮詢シタリシモ元來斯クノ
如キ人為ノ獎勵ヲ以テ強制的ニ産業ノ發達ヲ
備ラントスルハ法制上甚ク妥當ナラサル手段
ニ屬スルノコトナラス徒ラニ農民ヲシテ其負擔
ヲ増サシムルニ至リ却テ農家ノ福利ヲ増進ス

ルヲ能ハサルヲ以テ遂ニ其制定ヲ中止スルノ
議ヲ執リタリ

産業組合法ノ制定

農事ノ収利ヲ増加セント欲セハ稼穡ノ改良ヲ
畜ルト共ニ農家經濟ノ上進ヲ促サ、ル可ラス
今ヤ勸業農工ノニ銀行漸ク其設立ヲ見ルニ至
レルモ我産業ノ心髓タル小農工漁民ニ對シテ
ハ尚ホ未ク適切ナル金融機關ノ設アラサルノ
憾アリ故ヲ以テ信用組合其他産業經濟ノ上進
ニ必要ナル各種組合ニ関スル法規ヲ制定シ以

テ此等中産以下ノ産業者ヲ保護セントスルノ
目的ヲ以テ己ニ其法案ヲ第十回帝國議會ニ提
出シタリシモ時ニ閉會ノ期ニ迫リ遂ニ議事
ニ上ルニ至ラザリシニ依リ更ニ再查ヲ本法案
ニ加ヘ以テ第十一回帝國議會ニ提出センコトヲ
期セリ

肥料ノ取締

交通販路ノ發達ト學理ノ普及トハ漸ク肥料ノ
需給ヲ増スト共ニ又之カ製造販賣ニ伴フ弊
害ヲ生セリ而シテ現行刑法ノ成條ニ依レハ他

物ヲ混交シテ其質ヲ惡變スルモ詐欺ヲ以テ之
ヲ問フ能ハサルカ故ニ各種人造肥料及魚肥料
ニ在リテハ異物混交ノ弊漸ク盛ナルニ至リ己
ニ衆議院ニ於テモ其取締法案ヲ提出スル者ア
ルニ至リタルヲ以テ之レカ適切ナル取締方法
ニ関シ充分ノ調査ヲ遂ケ以テ其惡弊ヲ矯正セ
ンコトヲ蓄レリ

土地ノ整理

本邦農地ノ状態ヲ按ヌルニ區劃概ネ不正且狹
少ニシテ每區畦畔或ハ細徑ヲ以テ之ヲ圍繞シ

其地積ヲ不生産的ニ放置スルモノ全國ヲ通算スレハ蓋シ尠少ナラサルヘシ加フルニ同一人ノ所有ニ属スル農地ノ各所ニ星散セルカ如キハ其農業經營上ニ不便ナルコト亦尠カラサルヘキヲ知ル既ニ石川静岡其他ノ諸縣ニ於テ有志者相謀リ土地ノ整理ヲ行ヒタルモノアリテ其成績頗ル可ナリト雖モ未タ之カ普及ヲ見ルニ至ラサルハ蓋シ少數不同意者ヲ強制シテ之ヲ遂行スルニ適切ナル法律ヲ欠クト其出願手續ノ甚タ繁雜ナルトニ因ルナルヘシ依テ泰西

ノ法例ヲ参酌シテ適當ナル方法ヲ設ケ以テ土地ノ整理ヲ備ラシメテ期シタリ

參照 茨城外四縣ニ於ケル土地整理ノ成績

縣名	舊及別	全土地價	改正及別	差引 ^増 及別	土地整理ニ要セン經費 ^{反別}	經費	舊筆數	改正筆數
茨城	三、六〇、六	一、三〇、七五〇	三、八二七	二二二	三、六〇、六	六七三、二九〇	一七	一五
三重	二、九二八	七二六、六八	一、九八三		一、六一三	二九五六、七九六	八四	九八
静岡	三、二六〇	一、七九五、三三六	三、三六〇	一〇〇〇	三、二六〇	一五五、七七五	一一三	四三
石川	四七〇、三三三	三、三三三、三三三	四、八九五	二、五六一三	二、六三三、三四二八	一、五八〇、八七五	一八、六〇四	九、九八五
富山	七九、九五五	一、五七三、三〇一	八二、二八〇	二、三二〇	七九、九五五	九、四八四、一〇七	二、六五八	二、三三五
合計	五、六九〇、六一	二、〇五、一七〇、七二	五、九五、三四七	三、二八二	三、六〇、三八一	二、九〇、七、七六九	二、四七六	二、四七六

旧及別ニ以テ
四六%ニ當ル

一般歩ニ付
八國餘ニ當ル

萬國工業所有權保護同盟會議ニ委員派遣

明治二十七年中ニ公布セラレタル日英改正條約第十七條ニ於テハ兩國間特許意匠及商標ニ関スル相互保護ノ規定ヲ設テ而シテ其議定書第三ニ於テハ領事裁判權ノ撤去ニ先タテ帝國政府ハ工業所有權保護同盟條約ニ加入スルキヲ約定セルニ依リ其加入準備トシテ本年十二月一日ヨリ白耳義國ブッセル府ニ開設スル



萬國工業所有權保護同盟會議議事ヲ聽聞セシムルカ為メ審判官審査官各一名ヲ同地ニ派遣シ且ツ歐米各國ニ於ケル審判制度及發明特許等ニ関スル事項ヲ調査セシメ以テ其準備及現行特許條例改正ノ資ニ供セントセリ

特許條例ノ改正

專賣特許法若クハ意匠法ヲ制定シ以テ學者若クハ美術家ヲ獎勵シ又ハ商標法ヲ制定シ以テ商工業者ヲシテ其信用ヲ保全セシムルハ國家ノ進運ニ對シ重大ノ關係ヲ有スルモノニシテ

本邦ノ特許意匠及商標ノ三條例ヲ發布シタル
以來其施行既ニ十数年ニ涉リ發明若クハ創業
ノ思想ヲ振作シ商工業ノ發達ヲ資クルノ功績
實ニ斯カラストス今ヤ工業所有權保護ノ制度
ハ數回ノ變遷ヲ經テ國際的時代ニ達シ外國人
ニモ亦本邦人同様ノ保護ヲ与ヘサルヲ得サル
コトナリタルカ故ニ外人若クハ外國特許ニ
關シ現行條例ヲ改正シ若クハ或ル國ニ對シ特
ニ條約ヲ締結スルノ必要アリ現行特許意匠及
商標ノ三條例ハ國內國臣民ニ適用スル

カ為メ制定セラレタルモノニシテ國際的觀念
ヲ包含スルコトナク條約ヲ實施スルニ當リ僅
ニ形式上ノ支障ヲ見スト云フニ止マリ之ヲ運
用シテ廣ク外人ノ權利ヲ保護スルト共ニ大ニ
我國利ヲ増進セントスルカ如キ開國進取の精
神ヲ有スルモノニアラス而ルニ日英改正條約
ノ結果ニ依リ工業所有權保護同盟條約ニ加入
スルニ至リテハ同盟條約ノ明文ニ基キ直ニ我
國ニ對シ同盟條約ニ加入セサル點アリ又締盟
國ニシテ同盟條約ニ加入セサル獨逸國ノ如キ

ハ本邦ノ利益上彼我兩國ノ出願優先期間等ニ
関シ相互保護ノ條約ヲ締結セサルヲ得サルヤ
モ亦未タ知ル可カラス顧フニ改正條約ハ本邦
ノ特許意匠及商標保護制度ニ於ケル空前ノ變
革ニシテ為メニ從來本人カ外國ノ特許若クハ
意匠ヲ模造シ又ハ外國商標ヲ模擬スルヲ以テ
能事ト為シタルカ如キ弊習ハ之ヲ一洗シ去リ
今後大ニ獨立進取ノ思想ヲ發揮シ以テ歐米諸
國ニ對シテ競争セサルヲ得サルニ至ルヘク隨
テ國際的關係ニ基キ特許意匠及商標ノ三條例

ヲ改正スルコト最モ必要ナリトス且現行條例
ニ於テ再審査及審判ニ関スル手續ヲ明定シ以
テ出願者若クハ請求人ノ權利伸張ノ途ヲ開キ
タルカ如キハ條例發布ノ當時ニ於テハ顯著ナ
ル進歩ナリシト雖モ今日ニ於テハ寧ろ簡ニ失
シ充分ノ審理ヲ遂テ權利保護ノ實ヲ全クスル
コト能ハサルモノアリ殊ニ審判ヲ終審トスル
制度ノ如キハ工業所有權ノ尊重セラルル今日
公眾ノ心服ヲ求メ列國ノ安心ヲ求ムルニ能ハ
ス隨テ特許局ノ審判ニ對シテモ亦上告ヲ許ス

ノ制ヲ設クルノ必要アリ此等ハ條約實施ト相
關聯スル所ナリ特ニ現行條例ニ於テ改正ヲ新
行セサルヲ得サルモノトス依テ特ニ委負ヲ置
テ三條例改正ノ調査ヲ命シ又特許意匠及商標
條例ハ所謂工業所有權ノ全部ヲ保護スルノ法
律ニアラサルヲ以テ他ニ商品產地記入ニ関ス
ル法律ノ如キモ亦之ヲ制定シテ保護ノ實ヲ全
フセシムルヲ期シ本年白耳義國ニ派遣セシ特許
局員ヲシテ其調査ニ從事セシメタリ

萬國博覽會ノ出品ノ勸誘

來ル明治三十三年佛國巴里府ニ於テ開設ス
キ萬國美術品及農工產物博覽會ハ文化ノ中心
タル大都ニ於テ宇内ノ精華ヲ萃メ列國ノ技能
ヲ闡ハスルモノナルヲ以テ本邦ニ於テモ亦國
光ヲ發揚スルニ足ルヘキ物品ヲ出陳シテ戰勝
國タルノ名譽ヲ保持シ美術工藝其他萬般ノ事
物モ亦歐米諸大國ト競争シテ毫モ遜色ナキヲ
期セサル可ラス然ルニ本邦カ去ル明治廿六年
北米合衆國市俄高府ニ於テ開設セシ閣龍世界
博覽會ニ參同ノ事蹟ハ當時彼地ニ於テ價格暴

落シタルト開設地ノ博覽會ニ不適當ナルト出品人ノ出品上ニ関シ不注意ヲ免カレザリシ等ノ事情アリシカ為メ閉會後ニ於テ我カ出品人ノ意外ノ損失ヲ蒙リタルモノアリタルヲ以テ今ヤ前車ノ覆轍ニ鑒ミ該博覽會ニ對シ奮發興起シテ出品セントスルモ甚タ斯ク事務局ニ於テモ亦出品ニ對シ保護ヲ与フヘキ經費裕ナラサルカ為メ十分ニ之ヲ獎勵スルヲ得ス本會亦同ノ前途大ニ患フヘキモノアルヲ以テ余ハ曩ニ府下有カ者ニシテ美術ニ熱心ナルモノ數十

名ヲ官邸ニ延キテ大ニ其出品ヲ勸誘シ遂ニ其結果トシテ出品組合ナルモノ、組織ヲ見ルニ至リタリ

豫策

戦後ノ經營上産業ノ發達ヲ畜リ國富ヲ増殖シ國力ヲ培養スルハ極メテ必要ノ一ニシテ其誘導獎勵ノ任務ニ當ルヘキ農商務省ノ事業ヲ擴張スルハ勢誠ニ止ムヲ得サルモノアリト雖モ事業ノ緩急ヲ顧ミスシテ徒ラニ其擴張ヲ畜ルカ如キハ余ノ断シテ取ラサル所ナルヲ以テ三

十一年度ノ豫算ヲ編成スルニ方リ余ハ特ニ各
局課長ニ訓示スルニ此ノ趣旨ヲ以テシタルモ
尚各局課長ヨリ要求シタル金額ハ經常部二百
七十八萬六千。九十六圓臨時部二百七十二萬
八千五百四十九圓合計五百五十壹萬四千六百
四十五圓ノ多ニ達シタルヲ以テ反覆査覈ヲ遂
ケ事業ヲ擧クルノ上ニ於テ敢テ妨ケナキ限リ
務メテ節約ヲ加ヘ遂ニ經常部二百〇七萬五千
三百四十五圓臨時部二百〇六萬一千四百七十
三圓合計四百拾叁萬叁千八百拾八圓ヲ要求シ

タリ

Vertical columns of text within a blue border, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is arranged in approximately 15 columns, reading from right to left. The characters are small and difficult to decipher due to the bleed-through effect.

